

「秋田県立大学ウェブジャーナル B」第 3 号の発刊にあたって

秋田県立大学 生物資源科学部
学部長 吉澤 結子

秋田県立大学で平成 26 年度から始まったウェブジャーナルは、今年で A と B それぞれ第 3 号の発刊を数えることができた。創刊号と第 2 号の巻頭言に書かれたように、本ジャーナルは、開学理念である「21 世紀を担う次代の人材育成」と「開かれた大学として、秋田県の持続的発展に貢献」を目指した本学の教育、研究、地域貢献の各分野でのさまざまな活動を、主としてホームページ上で多くの方々に手軽にタイムリーに目にして頂けることを目指している。ウェブジャーナル B は本学における研究活動の成果を、研究途上で得られた価値ある結果を簡潔に報告する Short Report として迅速に発信することを目的としている。本学では、研究活動の活性化のために、科学研究費等の競争的資金への応募を支援する一方、学内公募により「重点研究」、「創造的研究」、「産学連携事業」等の枠組みを作って教員への研究活動支援を行ってきており、ウェブジャーナル B は、主としてこれら学内資金の支援による研究の成果を早期に発信する役割を担ってきた。

第 3 号である本号では、主として平成 27 年度の学内資金による研究成果について、57 編が掲載されている。ウェブジャーナル B は、創刊号からの収録数が 8 編、43 編、47 編と増加傾向にあり、本学の研究推進活動が実を結んでいる表れとして、たいへん喜ばしく感じている。また取り扱うテーマも、本ジャーナルは最近得られた実験や調査結果を速報的に紹介する性格であることから、萌芽的な所見や時宜を得た発表が多く、次のステップへのヒントとなる可能性を秘め、フルペーパーとは一味違った新鮮味や期待感を感じる。また産学連携部門では、秋田県を始めとする対象地域に根ざした研究や関連企業との実用研究の報告等、本学の個性が良く表れている。

これからの課題として、ウェブジャーナル A 第 3 号の巻頭言にもシステム科学技術学部学部長が書かれているように、ウェブジャーナル B で扱うテーマに関しても部局間交流研究が非常に活発というわけではまだない点がある。本学の大きな特長は工農 2 学部を有していることで、これに木材高度加工研究所や総合科学教育研究センター、生物資源科学部のバイオテクノロジー・センターとフィールド教育研究センターを加えた部局間の連携や共同研究がさらに密になっていくことが、本学の発展に良い効果をもたらすと信じている。

本ジャーナルの発刊によって、学外の読者の皆様に本学へのご理解を深めて頂くだけでなく、学内・学外両方の読者にはこれからさまざまな研究交流や話題提供に活用して頂き、本学の研究・教育・地域貢献の輪がさらに広がり発展していくことを祈念している。

平成 28 年 9 月